

LCAP (白血球除去)療法

白血球除去療法(以下 LCAP 療法)とは、血液中の活性化した白血球(悪さをする白血球)を取り除き、炎症をすみやかに鎮める治療法です。活性化した白血球が関節内にとどまり炎症を長引かせたり、軟骨や骨の破壊をはじめの前に取り除いてしまうものです。

血液を一旦体外に取り出し、フィルターに通して活性化した白血球を取り除いた後、再び体内に戻します。イメージとしては血液透析のような治療法ですが、血液透析のように長い治療時間(3~5時間)は必要なく、約1時間で治療は完了します。また、血液透析のように、血液中の水分や栄養成分には影響を与えないので、副作用も小さくて済みます。このフィルターは、活性化した白血球のみを取り除き、正常な白血球や水分、栄養成分は通過するように出来ています。また、LCAP 療法は現在服用しているお薬の服用を継続したまま行います。患者さんの状態にもよりますが、LCAP 療法を行った後、関節リウマチによる痛みや腫れが改善することが報告されています。

* LeukoCytApheresis の略で、「エルキャップ療法」と呼ばれています。

治療時間と治療回数

1回の治療時間は約1時間です。これを週1回のペースで5回行います。

* 1回の治療は、2,000~3,000mLの血液を白血球除去フィルターに通します。

治療方法

肘または大腿などの静脈から血液を体外に取り出し、フィルターで活性化した白血球を除去し、浄化された血液を静脈へ戻します。

LCAP 療法では血液を体の外に取り出すため、血液を一時的に固まりにくくするお薬(抗凝固剤)を使用します。

効果

患者さんの状態にもよりますが、白血球除去療法(以下 LCAP 療法)を行った後、腫れや痛みが改善することが報告されています。

また、お薬の効果を取り戻し、その効果を持続させることも報告されています。

しかしながら LCAP 療法が無効(効かない)な患者さんもいらっしゃいます。

副作用

発現頻度は極めて低く、頭痛、吐き気、めまいなど対症療法で速やかに改善する程度のもので報告されているのみで、安全性の高い治療法です。

